

愛知県子供読書活動推進計画（第四次）（案）に対する意見の概要と県の考え方

番号	項目	意見の概要	県の考え方
1	全体	「子供」「子ども」の表記がバラバラなのが気になる。文部科学省では、漢字ひらがなの交ぜ書きをやめているようで、それに従って「子供」に統一してはどうか。	本計画から、国に合わせて「子供」に統一しておりますが、固有名詞や引用する箇所は「子ども」と表記させていただきました。
2	全体	県の第三次推進計画の内容を踏襲した項目がある上、新たな取組を多く取り入れており、引き続き県内の子供の読書活動の充実を図ろうとする姿勢が見られ、頼もしい内容となっている。今後の具体的な取組の推進を期待する。	今後とも、子供の読書活動を推進する取組の充実に努めてまいります。
3	第1章 1	(3)計画期間 おおむね5年の「おおむね」は何を意図しているか。	国の第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」に準ずるとともに、子供の読書を取り巻く環境の変化に柔軟に対応できるよう「おおむね」の文言を入れさせていただきました。
4	第1章 2	「子どもが本を好きになるために」の「好き」は「好き」ではないか。	御意見のとおり修正しました。
5	第3章 基本目標1	方策2(1)イ⑦図書館施設の働きかけ 設置、改修等のため市町村に補助金を出してください。	今後の参考とさせていただきます。
6	第3章 基本目標1	方策2(2) 公民館・児童館の役割等について記述があるが、乳幼児期においては子育て総合支援センターのような場所を親子で利用することが多い。そうした施設にも絵本や、紙芝居などが備えてあるところが多く、読み聞かせを楽しんでいる親子もおり、書籍を通じて子供の知育に資する一面があるので、そうしたことも記述してはどうか。	御意見を踏まえ、方策5「③家庭と地域の連携」の記載を修正いたしました。
7	第3章 基本目標1	近年は、吉野源三郎の「君たちはどう生きるか」がリバイバルで発刊されたり、多くの子供が興味をもちそうな新刊が数多く発刊されたりして、書店に並ぶ本も一新されてきた。第三次推進計画において実践のあった、学校図書館関係者が「高校生にすすめる一冊の本」や、「高校生が友だちにすすめる本10冊」などの取組は、一時期、教室に掲示され、話題の一つとなったり教室内が少し明るい雰囲気になったりするなど、一定の効果があったと思われる。学校図書館関係者や高校生の声を吸収して県内の全ての学校が共有できる何らかの取組をお願いしたい。	今後の参考とさせていただきます。

番号	項目	意見の概要	県の考え方
8	第3章 基本目標1	昨今は、様々な要因により、精神的な面で思い悩む子供が増えているようだ。特に心の問題を抱える児童・生徒にとって、学校図書館は、保健室や相談室だけにとどまらず、「心の居場所」の一つとして機能する場所となり得るため、37ページの記述にはたいへん共感できる。	今後とも、魅力ある学校図書館作りの推進に努めてまいります。
9	第3章 基本目標2	小さい子供への読み開かせの充実を図る方策として、地域のイベントに読み聞かせコーナーを設置し、読書ボランティアによる読み聞かせを実施するなど、積極的な啓発活動を行っていただきたい。	今後の参考とさせていただきます。
10	第3章 基本目標2	方策については、このような方策でよいと思う。特に、ビブリオバトルを県で行うのは、不読率を下げる有効な一つの手立てになると思う。実際に、今年度豊田市でも行っていたが、多くの関心が集まった。	今後とも、子供の読書活動を推進する取組の充実に努めてまいります。
11	第3章 基本目標2	学校図書館において、ビブリオバトルを開催する学校が増えている。ビブリオバトル愛知県大会の開催は、楽しみである。	今後とも、子供の読書活動を推進する取組の充実に努めてまいります。
12	第3章 基本目標2	県子ども読書活動のホームページを定期的に更新し、読書は有意義で魅力あるものだと発信し続けてほしい。	今後とも、Webページ等を活用した情報提供の充実に努めてまいります。
13	第3章 基本目標2	学校図書館において、特設コーナーの設置やポップの工夫、12月にはクリスマスツリーといった季節に応じた飾り付けで子供を図書館へいざなうなど、優れた取組を実践する学校がいくつかある。こうした学校の取組を発表・共有する場の充実に期待する。	今後の参考とさせていただきます。
14	数値目標	数値目標について、目標値を現況よりもよく設定しなくてはいけないのは非常によく分かるが、高等学校の不読率を45.9%から25%に下げるのは少し無謀な気がする。年々増加する不読率（特に高校生）が下がる要素は今のところほとんどない。だからと言って自治体があきらめてはいけないのは分かっているが、せめて40%前後ぐらいで設定した方が現実的ではないか。2023年の検証時に、あまりにも数値目標とかけ離れたものになってしまったら、県の方策が有効ではなかったという厳しい評価がなされてしまうのではないか。今の子供にとって、娯楽は身の回りにあふれている。また、様々なアンケート結果から「本を読む時間がない」ということが分かっている。「本を読む時間をしっかりとってあげる」ということは、学校現場で必要なことであるが、今の学校現場には、その時間が全然ない。そういった背景を踏まえて、数値目標をもっと現実的に設定した方がよいと思う。	御意見を踏まえ、目標値を見直しました。

番号	項目	意見の概要	県の考え方																																		
15	数値目標	<p>一斉読書活動の実施率であるが、小学校における外国語の教科化に伴い、外国語の授業時間確保のため、朝の読書活動の時間をやめるという学校が出てきている。授業時間確保のために休み時間を短くしたりして各学校が工夫して一斉読書をしているが、「その時間がなくて苦しい」という声も少なからず聞く。100%という数値は、こういった調査では無謀なのではないかと思う。</p>	御意見を踏まえ、目標値を見直しました。																																		
16	数値目標	<p>愛知県図書館始め県内関係機関との連携も十分に図られ、関係分野の長年にわたる調査研究の成果を踏まえた第4次計画案であると思う。本第4次計画案の成果をより確かなものとするには、P47にあるように「数値目標」は不可欠のものである。その時、現況数値と最終年次における目標数値で示すことが多いようであるが、「年度ごとの数値」や「重点実施事項」を掲げることも必要ではないか。「重点実施事項」を掲げることで取組の焦点化を図ることになるかと思う。例えば、「学校種ごとの不読率」で小学校を考えた場合、</p> <table border="1" data-bbox="376 746 1182 927"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>数 値</th> <th colspan="4">小 学 校 重 点 実 施 事 項 (例)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2019</td> <td rowspan="2">5%以下</td> <td>図書館整備</td> <td>朝 書</td> <td>読み開かせ</td> <td>家族書店散歩</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>(司書教諭)</td> <td>家 読</td> <td>(家族)</td> <td>公立図書館活用</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td rowspan="2">4%以下</td> <td>(学校司書)</td> <td>学級文庫</td> <td>(ボラ)</td> <td>*本の交換会</td> </tr> <tr> <td>2022</td> <td>良書の紹介</td> <td>*持寄文庫</td> <td>(先生)</td> <td>読書感想画</td> </tr> <tr> <td>2023</td> <td>3%以下</td> <td>図書館行事</td> <td></td> <td>おはなし会</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>というように、調査結果を踏まえた表示をすることはいかがか。取組に対し学校という教育現場にとって分かりやすい示し方をすることが有効ではないか。もちろん、「重点実施事項」によっては、学校種間横断のことがらも当然考えられる。*印は、私案である。</p>	年度	数 値	小 学 校 重 点 実 施 事 項 (例)				2019	5%以下	図書館整備	朝 書	読み開かせ	家族書店散歩	2020	(司書教諭)	家 読	(家族)	公立図書館活用	2021	4%以下	(学校司書)	学級文庫	(ボラ)	*本の交換会	2022	良書の紹介	*持寄文庫	(先生)	読書感想画	2023	3%以下	図書館行事		おはなし会		本計画の推進と進捗管理の参考とさせていただきます。
年度	数 値	小 学 校 重 点 実 施 事 項 (例)																																			
2019	5%以下	図書館整備	朝 書	読み開かせ	家族書店散歩																																
2020		(司書教諭)	家 読	(家族)	公立図書館活用																																
2021	4%以下	(学校司書)	学級文庫	(ボラ)	*本の交換会																																
2022		良書の紹介	*持寄文庫	(先生)	読書感想画																																
2023	3%以下	図書館行事		おはなし会																																	